

おの100と私

私がおの100に出逢ってから早5年の時が経ちます。やってみる大切さ、当たり前を創る難しさ等おの100で頂いた学びは本当に数えきれないほどありますが、5年間かかったからこそ見えた学びやおの100の魅力を紹介致します。

『人はそれぞれ価値観・考え方が違う』

私はおの100に出逢うまでは、無意識のうちに自分と違う考えをもった人と深く付き合うことを避けていて、自分を認めてくれる場所にしかいなかったのだと思います。おの100にはいろいろな価値観・考え方をもちた学生が参加しており、おの100の活動を進めるうちに意見の衝突が何度もありました。「こう言っているのに何で分かってくれないんだろう」と思うこともありましたが、自分勝手に自分の理想や考え方を押し付け、相手の思いを尊重できなかったことも多くあったように思います。周りの人を傷つけてしまうような失敗も多かった私がおの100を続けてみて分かったことは、相手の思いも汲んだ上で、建設的に自分の思いを話すことが、信頼関係に繋がっていくということです。

ずっと一方的にしか自分の思いを相手に伝えていなかった時、常にギクシャクした関係が続いていました。でも、一人になって相手の気持ちを考えてみて、「あ！もしかしたらあの人はこういう思いだったのかも」と気づいたとき、自分の行動を反省し、「相手の思いを汲みながら話をしてみよう…」という気持ちになりました。なかなかうまくはいきませんでした。ある時その相手の思いも汲みながら自分の本音を伝えたとき、相手からも私を思った本音を涙ながら伝えてくれました。この時、「これが相手の価値観・考え方を受け入れるってことなんだ…」とようやくわかったような気がします。

また、信頼関係を結べた組織において、価値観も考え方も違う一人ひとりが見えているものを伝え合えば、組織が抱える問題の解決方法の糸口を見つけることができるのだと思います。1人では一歩しか進めないところも、組織だと何歩も先に進むことができるのだと思うのです。団長補佐として全体を管理する立場にいたときも、社会人スタッフとして組織全体を見ているときも、一人ひとりが見えているものを建設的に話し合うことで、自然と「だったらこうしたらいいんじゃないか」「今まで見えてこなかったことが見えるようになった」が増えて、問題を解決できることが多かったように思います。その瞬間が何ともたまらなく嬉しいし、組織で動く楽しさを感じられることができました。

『自分の存在・行動を認め、受け止めてくれる存在が、次の行動への勇気をくれる』

私が緊張しているとき、頑張っているとき、悩んでいるとき、少し歩みを止めているとき、いつも団長やおの100の先輩方・同期は温かく私を受け止めてくれていたように思います。温かさであり、決して甘やかしてではありません。私の思いを聴き、私の思いを言語化して価値付けて下さいました。多くを語らず、ただただ成功も失敗も温かい目で見守って下さっていたのだと思います。そして最後には私を労ってくれ、「ありがとう」と言って下さいました。私はこの温かさこそがおの100の魅力だと思うし、絶対に忘れてはいけない、繋いでいか

ないといけないおの100の心なのだと思います。自分を受け止めてくれる存在を感じるからこそ、人は自分を出せ、積極的に動こうとすることができるのだと思います。そして積極的に動くところに、学びはあるのだと思うし、結果おの100が目指す生きる力の育みに繋がっていくのだと思います。

私は幼稚園教師として働いており、幼い彼らを相手にして思うのは、おの100と同じように自分を認めてくれる場所で彼らは力を発揮するということです。「～したらダメ！」が多いところで育つと、彼らは大人の顔色を伺いながら過ごすようになり、“自分で”何かをする意欲を失ってしまうのだと思います。おの100で温かいかわりを存分に受けてきた私だからこそ、子供達からたくさんのことを教えてもらいながらも、彼らがのびのびと自分を出せ、自ら学びに向かっていけるような心情・意欲・態度をもつ子供たちを育てるようにこれからも努力していきたいと思っています。又、幼稚園というところには多くの教師が集まり、一人ひとりがそれぞれの教育観をもって仕事をされています。一人ひとりの先生方の教育観を分かろうとしていながら、力を合わせて子供たちを大きく育てられる環境をつくれるように精進していきたいと思っています。

おの100ではやってみようと一歩踏み出してみて、失敗して、でもそこから学びが必ずあって…。未来の参加小学生や大学生が温かいおの100でたくさん心を動かして心が温まる瞬間、「誰かのために」「私が」力になりたい！」と心が震える瞬間を支えたいという思いから、私はやっぱりまだまだここにいたいなあと思います。おの100の本質を忘れることなく、おの100を継続させていくために自分にできること、自分にしかできないことをこれからも続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、団長を始め、先輩方、同期のみんな、後輩たち、集まってくれる学生や参加小学生の皆様、協賛企業の方々、地域の皆様に、最大9の“ありがとうございます！”と愛を込めて。